

NEXTステージは よき理解者とともに

人生 100 年時代と言われる今、多様なライフスタイルが認められていく一方、従来とは異なる「生き方」「働き方」を意識することが多くなりました。今回はパートナーとお二人で、ライフプランを歩む卒業生のご紹介です。

大学院で学んだこと

大学では、情報科学でコンピュータ技術の基礎を学んでいました。当時はウィンドウズが誕生し、IT技術が生活に入り始めた頃です。コンピュータの情報処理や科学技術について学んでいましたが、「コンピュータは、これから人や社会にどう関わっていくのだろう」という思いが芽生えました。コンピュータの可能性や社会課題についても探求したいと考えたのです。調べてみると東大大学院には、心理学と情報理論の認知科学的なアプローチで、人とモノとのコミュニケーションの研究を行っている分野があると知り、入学を決めました。

在籍した丹羽清研究室ではインタラクティブな機能をもつようになったモノと人の関係性について研究をしていました。例えば、教育心理学の分野で「人」対「人」の関係で成り立つといわれていたことが、「人」対「ロボット」の関係でも成立するのかという内容です。

この時期に「物事を相互作用の中で捉えること」「その影響先や事象同士の関係性を考えること」

という思考パターン、システム思考を徹底して学びました。

研究室では実務社会との交流を積極的に取り入れていたため、社会人学生が多く在籍していました。現場課題をもった先輩たちが課題解決をしていく様子や産学の共同研究、技術経営に取り組む姿は、刺激となり、充実した研究生活だったと思っています。

自分に足りないと思う 部分は積極的に取り込む

卒業後は総合電機メーカーでITを使ったコミュニケーション支援やユーザビリティの研究に従事していました。5年ほど勤務していたのですが、実はビジネスの仕組みについてほとんど理解していないことに気づきました。これでいいのかと迷い始めた頃、大学院時代の先輩がベンチャー系コンサルファームを立ち上げ、お声がけいただいたのが契機となり転職。多様な案件を通して経営者目線での考え方を学ぶことができたのはベンチャーならではの、貴

重な経験となりました。

そんな中、夫がカナダ・バンクーバーに2年間赴任することが決まり、せっかくの機会なので仕事を辞めて夫に同行することを選択しました。“経験こそ財産だ”と思っていたからです。大学付属の語学学校で英語力を磨いた後は、ブリティッシュ・コロンビア大学でマーケティング戦略を学び、商品開発やブランディングについての知識を深めました。

帰国後、夫は単身赴任で山形に、私は東京で仕事に就いていましたが、休日に山形を訪れる度にいい街だと実感し職を探し始めました。山形市の機関「山形市売上増進支援センターY-biz[®]」の公募を知り、挑戦することに。自然に恵まれた地方都市・バンクーバーで暮らした経験が背中を押したのだと思います。

売上げアップは お金をかけず、知恵で勝負

私がセンター長を務めるY-bizは、売上アップに特化した無料のビジネスコンサルティングを地域の中小企業や起業家に提供しています。売上向上を実現するため、対話を通して相談企業自身が気がついていない「強み」や「オリジナリティ」を見極め、それが刺さる利用シーンとユーザーを探ります。そして、必要としている人に伝えサービスや商品として届ける



センターでの相談は1回1時間だが、何度でも無料。

ために、「販路開拓」「新市場参入」「新商品開発」「情報発信」を伴走型で支援します。

これらを、多額の投資をせずお金をかけない方法で模索するのが大きな特徴です。強みも利用シーンも、その商品やサービスを届けたい相手も、絞り込むことが重要で、それに合わせて情報発信方法も細かく調整します。これらを、専門的スキルをもつチームメンバーとともに、相談企業と一緒に取り組んでいきます。

多くの方々に活用いただき、2018年の設立以降、800以上の企業等から相談が寄せられています。情報発信強化や販路開拓による売上アップのほか、生まれた新商品や新サービスは200を超えました。

山形市は創業100年超の企業が京都に次いで多いと言われていています。歴史がある一方、新しい可能性を秘めた魅力ある街。多様性に満ちた要素も、バランスよく共存していると感じています。

私たちは町の応援団。企業や地域の隠れた魅力を見出して活性化につなげ、若い人も戻ってきたくなる街づくりを目指していきたいと思っています。

Profile

2000年総合文化研究科広域科学専攻修士。総合電機メーカー、ベンチャー系コンサルファームを経てカナダに留学。帰国後は大手情報システム企業で新事業新サービスに従事。2018年より山形市売上増進支援センターY-bizセンター長に就任。

富松 希

Tomimatsu Nozomi

知恵とアイデアで地域再生、
産業を支援



住む場所、働く場所が近くて生活時間にロスが少ないのは、地方都市のいいところ。山形の暮らしはカナダ・バンクーバーの生活と似ていると感じる（カナダにて）。